

カーボンフットプリント コミュニケーションワークショップ ーグリーン・グローバル市場における電子電気製品分野の見える化戦略ー

開催ご報告

名 称	カーボンフットプリント(CFP)コミュニケーションワークショップ ーグリーン・グローバル市場における電子電気製品分野の見える化戦略ー	
本ワークショップの目的	グローバル市場への対応として、電子電気製品分野の先進企業よりCFPの戦略的な活用事例についてご紹介いただき、カーボンフットプリントの普及促進を図る。	
日 時	平成 24 年 12 月 14 日(金)10:00～12:00	
場 所	東京ビッグサイト会議棟 6 階 610 会議室	
参 加 者	105 名	
ワーク ショップ プログラム	<p>10:00-10:05 主催者挨拶 (社)産業環境管理協会 専務理事 黒岩 進</p> <p>10:05-10:30 「日立の情報通信の環境貢献見える化によるグローバル戦略」 株式会社日立製作所 情報・通信システム社 環境推進本部 主管技師 並河 治氏</p> <p>10:30-10:55 「クラウドサービス CO₂ 見える化のビジネス戦略」 日本ユニシス株式会社 U-Cloud事業部 U-Cloud推進部 マネジャー 近藤 良子氏</p>	 <p>主催者挨拶</p>  <p>ご講演① (株)日立製作所 並河様</p>  <p>ご講演② (日本ユニシス株) 近藤様</p>

	<p>10:55-11:20 「キャノンにおけるCO₂の見える化によるグローバル戦略」 キャノン株式会社 環境品質本部 環境企画センター 所長 古田 清人氏</p> <p>11:20-11:30 質疑応答</p> <p>11:30-11:45 「CFP コミュニケーションプログラムを取り巻く動向と今後の展開」 (社)産業環境管理協会 LCA 事業推進センター 所長 壁谷 武久</p>	 <p>ご講演③ (キャノン㈱ 古田様)</p>  <p>講演④ (弊協会 壁谷所長)</p>
感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・CFP をどのように進化させて、CO₂ を削減するかが課題。 ・まずは、始めてみることの意義を感じた。 ・大変勉強になった。 ・CFP プログラムのグローバル対応に期待する。 ・中小企業・地場企業の CFP 取得に向けた支援プログラムの充実が必須。 ・CFP の認知度を高めることが重要 <p>※アンケートは、64 名の方にご回答をいただきました。</p>	